発行：プロジェクトアドベンチャージャパン paj@pajapan.com Phone:03-3406-8804
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-6-12 ベルデ青山6F web: www.pajapan.com

お互いを最大限に尊重する

プロジェクトアドベンチャー NEWS LETTER

#006

チャレンジバイチョイス

フルバリュー

自分の挑戦は自分で決める

（2014年9月）

新刊ご案内 『せんせいのつくり方～"これでいいのかな"と考えはじめた"わたし"へ』

岩瀬直樹・寺中祥吾 著，PAJ監修　旬報社 1500円+税

公立の小学校の先生である岩瀬（ゴリ，イワセン）と，PAJトレーナーの寺中（アンディ）の共著です。
体験したことから気づいたことを学びにつなげていく「体験教育」の視点から，読者のみなさんと，先生のあり方，クラスのあり方を考えていく本。PAJ製作・販売の「しららないカード」関連のワーク付です。2014．9/25 発売！ アマゾンにて予約受付中です

わたしたちも
本の中で
活躍中です！

名前を呼び合う

秋は学校行事も多く，授業以外で子ども同士が関わり合う機会も多いですね。

これまで1学期の数ケ月を一緒に過ごし，それぞれの名前は知っていると思いますが，お互いに名前を呼び合っているでしょうか？ 名前を「知っている」ことと，「呼び合える」ことには大きな開きがあります。名前を呼ばれれば単純に嬉しく，呼び合えれば，お互いの関わりは次第に円滑になっていきますが，そうでなければぎこちなさは，なかなか払拭できません。プログラムを提供する場合，序盤に名前を使うアクティビティを行うことが多いと思いますが，その後「関わりが増えない」「発言，関わりに偏りがある」という場合には，改めて名前を呼び合うアクティビティを行うことによって，その後，グループ内の関わりが大きく変化していくことがあります。

PAではよく「呼ばれたい名前」を決めますが，それがルーティーンになり，実際に使われていなかったらもったいありません。「名前」はお互いの関わりにとっての重要な要素。名前という視点で改めてクラス（グループ）を見てみませんか？

てつ

PAスケジュール

PAアクティビティ，ロープスコースを体験します！

体験会　2014．11．8（土）
学校教育関係者＆学生向け
一般5400円，学生4320円
高尾の森わくわくビレッジ

「クラスのちからを生かす」研修会#5『PA＋（プラス）』
第5回目は，「PA＋（プラス）」：PAと協同教育」です。
PAと授業の橋渡し，学び合う授業の具体的な考え方，方法としての協同学習を学びます。
2014．11．22．（土）9:00～17:00　10,000円
高尾の森わくわくビレッジ

―――＊―――＊―――＊―――＊―――

《指導者講習会》

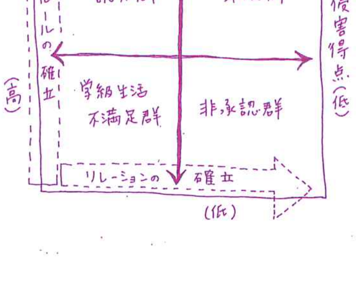
AP（アドベンチャープログラミング）　2014．10．10～14
国立山口徳地青少年自然の家

SAS/Low-SAS（安全講習会）2014．11．14～19（LOW-SASは～16）
PAJ日野春ホームコース

Q-U：『PAを活用したクラス経営に関する調査』

（楽しい学校生活を送るためのアンケート）

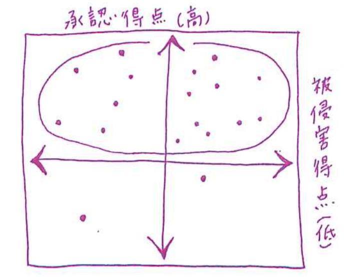
2013年度の1年間をかけ，小学校2～6年生15クラス496名に協力をお願いして，PAを活用したクラス経営に関する調査を行いました。
Q-Uアンケート，調査用紙，先生への面接などを行い，それらを総合的に眺めて「PAってどんな効果があるのだろう」「もっと効果的に活用するには，どうしたらいいのだろう」ということを考えました。
Q-Uアンケートには「学級満足度尺度」と「学校生活意欲尺度」との2つで構成されていて，今回の調査では，主に「学級満足度尺度」の結果を使っています。縦軸が承認得点（クラスの中でどれくらい認められているか），横軸が非侵害得点（いじめやひやかしを受けていないか）で表される四角形に，子どもたちの得点がプロットされて，一人ひとりの様子，クラスの様子をアセスメントすることができます。



座標の右上にプロットされたグループを「学級生活満足群」と呼んでいます。Q-Uを開発した早稲田大学の河村茂雄さんは，クラスが学級満足群に入るためには，「ルール」と「リレーション」の確立が必要だと話します。PAにはこの「ルール」と「リレーション」を子どもたち自身の手で築いていく方法があるのです。

リレーションの確立には"アクティビティ"

からだや言葉をつかって小さな関わり合いを積み重ねながら，次第に関係性がつくられていきます。今回の調査でも，1回目の調査（6月頃）では，上半分に広がった分布のクラスが多く見られました。これはPAアクティビティなどを通してクラスの「リレーション」は広がっているのですが，その中でいやな思いをしたり，いやなことをされたりしている子どもがいる可能性があるという状況だと想像されます。



ルールの確立には"ビーイング"

クラスにとって大切なこと（規範や指針）を子どもたち自身が考え，授業や普段の生活，PAアクティビティなどの中で行動に移し，クラスという集団の成長に合わせてつくり変えていきます。

そしてこのふたつは互いに影響し合っています。PAを活用したクラスの中では，自分たちの「ルール」をつくるビーイングが機能するようになると，「リレーション」を築くのはアクティビティである必要がなくなります。どんな場でも，関係が深まる学びの場になるのです。

アンディ

＊調査の詳細は，PAJのHPにてご報告予定です。

PANewsletterメール配信　ご希望の方は，news@pajapan.comまで氏名・所属をお送りください。facebookでも配信しています！